

三遠南信地域交流たずねある記 (11)

三遠南信地域 路線バス乗り継ぎの旅 (7)
豊橋駅から飯田駅へ (2)

～北設地域を通り愛知長野県境を目指す～

三遠南信地域路線バス乗り継ぎの旅は、設楽町田口から東栄町、豊根村を通り愛知・長野県境へ。テレ東番組と同様、バス路線が途切れる県境越え・峠越えの徒歩区間が待ち受ける。

■設楽ダムおよび関連事業の現状

設楽町において現在最大のエポックと言えは設楽ダムであろう。設楽ダムは設楽町内の豊川に設置する洪水調節、渇水時の流量確保、工業・農業用水供給のための多目的ダム。洪水調節機能といえは、今月の豪雨により豊川流域で大規模氾濫が起きたことは記憶に新しい。

昭和48年、愛知県が設楽町に設楽ダム調査の申し入れを行ったのを嚆矢として、

- ・平成2年 「豊川水系における水資源開発基本計画」閣議決定
- ・平成13年 豊川水系河川整備計画を策定
- ・平成15年 「設楽ダム建設事業の推進に関する協定書」を設楽町長と中部地方整備局長が締結
- ・平成19年 環境影響評価書の公告縦覧
- ・平成21年 設楽町がダム建設の同意を表明

同年 国、県、設楽町がダム建設同意の協定書調印
など進んできた。(中部地方整備局設楽ダム工事事務所HP)

他方で令和4年度、「働き方改革」で時間外労働を前提とした計画見直しや週休2日制とした再評価の結果、工期が37カ月延長、事業費も増大することが判明し話題となった。

工事面では、ダム本体建設のため本流を付け替える「転流工」が完成し、本年2月に転流式が執行され、ダム本体基礎掘削工事へと進んでいる(中部地方整備局HP)。

町内を巡ると目立つのは、ダム湛水により水没する国道・県道の付替え工事。豊川本流あるいはダムサイト付近は立ち入れないため、愛知県道10号設楽根羽線(長野県道も10号線)沿いを見ると(豊川支流の境川)、この流域でも水没する範囲は広く、県道10号の両側で道路付替え工事が行われる。建てられた橋脚は遥か高く、そこまで水が漬くのかと実感する。大規模工事に伴う移転家屋は124世帯(移転100%実施)(同HP)、移転される方々の心情を思うが、同時に設楽ダム建設を地域振興の起爆剤としたい地域の期待も窺える。



東栄町中心部



写真① 付替県道10号橋脚

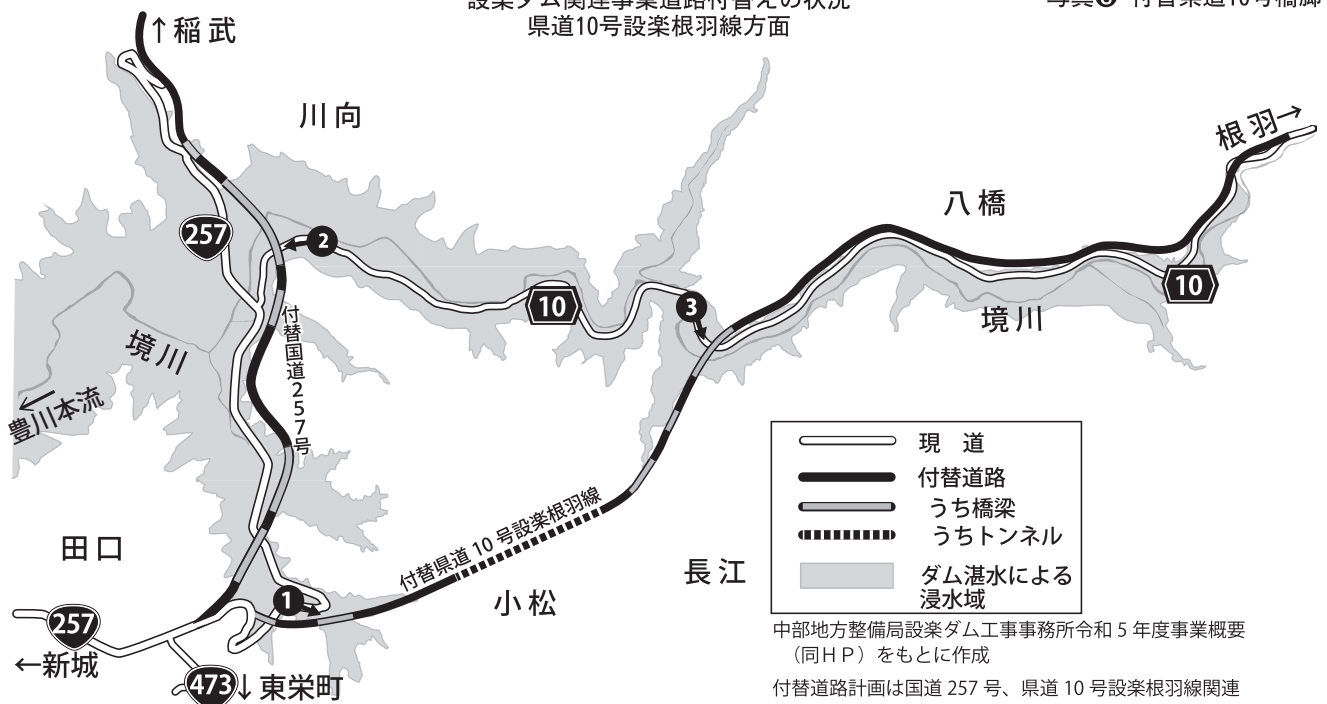


写真② 付替国道257号橋脚



写真③ 付替県道10号橋脚

設楽ダム関連事業道路付替えの状況
県道10号設楽根羽線方面



■国道151号へと東栄町を目指す

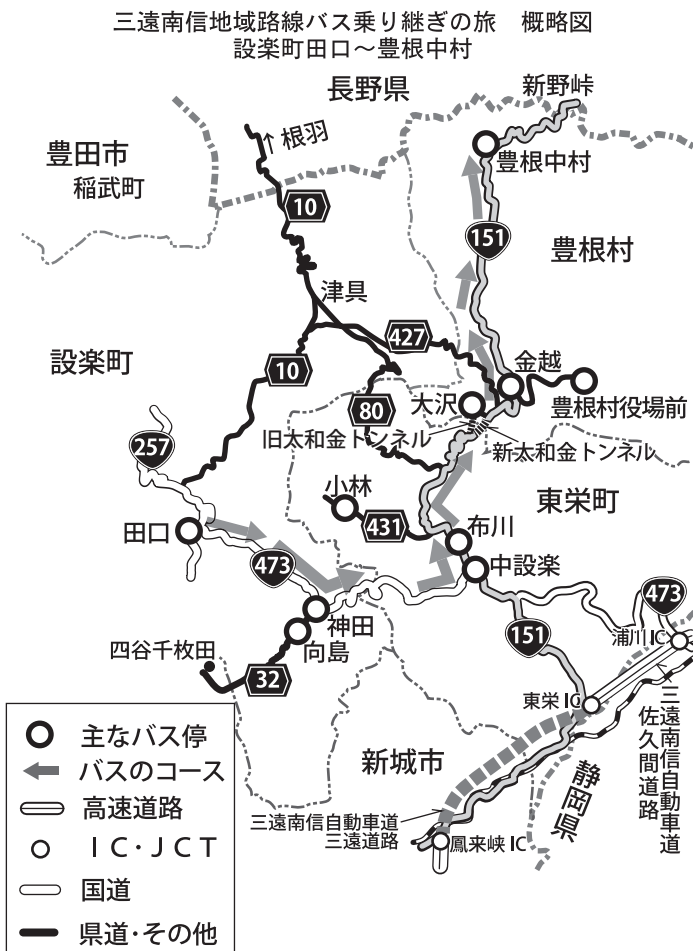
設楽町の「コミュニティプラザしたら」にある田口停留所からコミュニティバスに乗る。ここから先のコミュニティバスは、設楽町、東栄町、豊根村が「おでかけ北設」の統一ネーミングで運行している。

出発して田口市街地を貫く国道257号(473号と重複)から単独国道473号に入る。国道473号は、東栄町へ向かいその先で三遠南信自動車道に浦川ICで接続。更に佐久間町を通過して水窪方面から来た国道152号(秋葉街道)と合流し、重複区間となって浜松中心部へ向かうが、同市天竜区山東で方向を転じ(362号と重複)川根本町へ、そこから単独473号となって島田市などを通り牧之原市まで行っていることが判る。

国道473号の神田でバスは県道32号に入り向嶋へ向かうため、神田で降りて次のバスを待つ。この県道32号をそのまま行って峠を越えると新城市(旧鳳来町)になるのだが、そこに日本棚田百選に選定された四谷千枚田がある。畔の石垣が重厚な棚田風景が展開する。

神田を過ぎると、道が狭く避け合いが厳しい部分がある。東栄町に入ると平らな地形が見えるようになる。国道151号に出ると中設楽の交差点とバス停。中設楽は国道151号を豊橋方面に向かう際に立ち寄るコンビニのところと判った。

次のバスまで3時間弱あるため、東栄町役場へ移動し、公共交通の担当者からお話を伺った。「『おでかけ北設』は3町村公営バスで運行しており、各町村の中心部から町村内各所を結ぶとともに、相互に他町村に乗り入れ、帰りの乗客を拾うことと、北設地域内のバスシステムの一体化を図っている」とのことであった。



おでかけ北設 東栄設楽線
田口～神田 300円



日本棚田百選 四谷千枚田



神田バス停とおでかけ北設 東栄設楽線
神田～中設楽 100円



東栄町中設楽 バス停は店舗の反対側にある



東栄町役場

■東栄町・豊根村を縦断、国道151号を北上

中設楽バス停に漸く16時22分発のバスがやってきた。バスには下校する小学生十数人が乗っている。ローカルバスでは、乗客は私一人、の場面が多いが、子どもの声でバス内は明るい雰囲気。先のバス停で三々五々降車していく。

この頃になると、おでかけ北設運転手の情報網で路線バスを乗り継いでいる旅行者がいると知れ渡り、乗り込むと歓迎してくれて次の乗換停留所などを教えてくれる。

国道151号に出て少し走ったところで、バスは151号から県道431号へと逸れていくので、**布川**バス停で乗り換えなければならない。布川バス停は中設楽から151号を長野方面に行ったところのドライブインであった。既に**豊根役場**前行きのバスが待っている。

布川から先、東栄町・豊根村境が**太和金トンネル**になる。旧トンネルは避け合いができない程狭いトンネルだったが、2016(平成28)年に新太和金トンネル(685m)となった。トンネルを抜けるとバスは左折して**大沢**まで行き、引き返して151号に戻る。よく見ると**大沢**は旧トンネル出口の集落で、新トンネル開通後もこちらへ回る。バスはその先で豊根村役場方面へ行ってしまうため151号沿いの**金越**で降り、乗り換える。**金越**は、国道151号を豊橋方面に行くと「豊根村役場」の道路表示が見られる分岐点のところだった。**豊根中村**行きバスまで約50分待つ。

次に来たバスは**豊根村役場前発豊根中村**行き30人乗り位の大きいバス。中には下校する豊根中学の生徒が20人近く乗っている。バスは**坂宇場川**に沿った各集落の停留所へ寄り、生徒が段々と降りて行く。停留所には迎えの家族が見られる。「ほんとに歩いて新野まで行くの？」と運転手に心配される。

■いよいよ徒歩で新野峠越えに

豊根中村は、国道151号新野峠を下ると最初に現れる集落だった。最後まで乗っていた中学生とともに降車。到着時は日没後最後の薄明かりだったが、峠越えの支度をしている間に真っ暗となる。事故防止のヘッドランプと蛍光たすきを身に着け歩き出す。暫く歩くと歩道が無くなってしまいが、路側帯の幅が十分に広く、横を車が通過しても危険は感じない。

峠までの国道151号は旧道の**九十九折**のコーナーを直線的に結んだ線形のため、靴底に感じる勾配はかなりあり、駆け足とはいかず速足で、通行車両が少なく静寂に包まれ、満天の星の下を進んでいく。「次のコーナーを回ると峠下の最後の直線」との期待を何度も裏切られながら歩く。

暫くすると足裏に感じる勾配がスッと軽くなる。やがて平坦になり、今度は下り勾配を感じる。峠を越えた。県境を示す道路表示が現れた。阿南町に入ったのだ。時計をみると**豊根中村**から新野峠まで約50分だった。

峠から先は国道151号改良が相当進んでいて本舗装こそまだであったが、新野中心部まで線形が整えられていた。下り坂で自然と駆け足になり新野の街まで駆け下った。見覚えのある道の駅信州新野千石平のモニュメントが現れる。新野中心部へ到着した。新野峠から約35分だった。

今夜は新野に泊りとなる。

■おわりに

北設地域の路線バスを運行されている全ての関係者に感謝したい。この地域の路線バスが繋がっていないければ、そもそもこの南信州→遠州→東三河→南信州と巡る企画は成り立たなかった。これらバス路線がいつまでも続くことを願う。

(注) おでかけ北設の基幹バスには、他に津具線(田口～上津具)を豊鉄バス、田口新城線(新城市民病院～田口)を豊鉄バスが担っている。

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)



中設楽バス停とおでかけ北設
豊根東栄線 中設楽～布川 100円



布川バス停とおでかけ北設
豊根東栄線 布川～金越 300円



金越バス停とおでかけ北設
坂宇場線 金越～豊根中村 200円



新野峠(県境表示)